

「うちのひとやサーカスのひと、がっきをえんそう  
するひとがおるバスにのってどうぶつえんいきたいな！」

向井 敦哉 (むかい あつや) 5歳

玖珂保育園  
(山口教区)

●表紙のこたば●



縦置き画面には6階建てのバスが描かれています。それぞれの階にたくさんの人や動物たちが乗っています。先生は、バスに乗ってサーカスを見に行く遠足を心待ちにしていた子供たちに「どんなバスに乗っていききたい」と問いかけ、バスについて思いついたことを、自由に話してもらって導入したそうです。そうしたことで、概念的なバスではなく、各自がそれぞれのバスのイメージを持ち、自由に発想し、イメージを広げていくことができました。

敦哉君は、サーカスの人たちや家族を乗せて自分が運転しているバスを描きはじめ、お友達も乗せたい、ギターを演奏する部屋もあるとおもしろいかな、サーカスの動物も連れて行こう、と上に積み重ねていくように次々と描いていきました。さらに、背の高くなったバスからすべり台で滑り降りると良いな、とお話が展開していきました。こうした年長さんらしい饒舌な表現を予測した先生が用意した黒色のサインペンとコンテを活かし、集中して描いています。

おお はし いさお  
大橋 功

岡山大学大学院  
教育学研究科